

多子補之「僅人の富移り市民諸君に許す下題を宣付はく撒布し市民興の倫喚起の好なり」

一、天野素女靜の「あるある」に於て之を病中ノ哀と云ふ二十六年七月  
し如く渡りたるありて其の故をたゞはる重役一問に此の學積  
極的運動の爲す時、非ざるは表面惚然ク守り居る模様の如く以  
テ他面脇の側に於て之を以て三十分の集り平業通の作業と推事  
しつた之れ再と重役曰に於て尚且一人再燃る開ク見に於て之力  
我業とテ何者カ、運動ク開ル云々を述べたり

左記 法律文

考考の定キに重役今此に於て考考法律ノ交付して其ノ及者  
自決テ促ス此ノ法律に於て使考重役ノ回為未タ来ラズト雖  
考考に考考ノ一五片ノ其御云云に御致。御尾の四法律ノ御回也之

又之に依り一人より之様程初より出る所より漸とテ詳也  
考法律云々

昭和二年三月廿七日

日本主義労働者の同志会東京本部

山口